

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

## 古い汚れた紙としか認識されないものが

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤牧人

「歴史とは過去との対話である」とひとりの歴史家が語りました。教会は、その大切な歴史を持ち、過去との対話をしながら、今の時代において、福音宣教の働きに励んでいるのだと思います。

5月の総会で、文書保管委員の報告の中で、資料保存の大切さが訴えられています。

「各教区・教会においては記念誌等の作成や刊行にあたって一次資料が消失してしまうことが少なくない。また、教会における牧師転任に際しても、それ以前の関係資料が処分されることが少なからずある、ことに古い資料群は貴重な歴史的価値を伴うものが多いが、一見すると古い汚れた紙としか認識されないことも多く、処分の対象にもなりやすいので注意を喚起していただきたい。」と報告されました。

本当にそうだと思います。つい、自分の判断で「こんなものいらないや」とか、「大した価値はないよ」とか、「どんどん物がたまってしまふから」というようなことで、処分しているということがあるのではないのでしょうか。あるいは逆にどんどん積み上げられていき、わからなくなっていくということもあるかもしれません。

断捨離ということが言われました。物理的、精神的な意味で、自分にとって不要な対象を切り捨てて身軽になって、シンプルなライフスタイルを目指すこと、という意味なのだそうですが、ものを整理することがブームになったようです。整理すること、シンプルに過ごすということに異存はありません。そうありがたいとも思います。しかし、教会の資料に関しては、そのような思いから離れて見直すことが必要なのではないかとも思います。

もちろん何もかも残すということではないでしょう。ではどうしたらよいのでしょうか。ありがたいことにその基準が示されています。

教会の歴史資料を保存する所として、管区、教区、教会と3か所があります。それぞれに保管すべきものがありますが、教会においては、「教籍簿、日本聖公会年度統計表、週報、礼拝日誌、礼拝出席者名簿、信徒名簿、会計帳簿、会計証憑類、

## □会議・プログラム等予定

(7月25日以降および  
前回報告以降追加分)

### 7月

- 9日(月) 青年委員会〔中部教区センター〕
- 17日(火) 礼拝委員会
- 20日(金) 全国青年大会実行委員会〔仙台〕
- 23日(月) 宣教協議会実行委員会
- 25日(水) 主事会議
- 26日(木) 文書保管委員会
- 26日(木) 管区人権担当者会〔大阪教区事務所〕
- 27日(金) 原発事故と放射能に関するワーキング・グループ〔京都教区センター〕
- 30日(月) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」 予算編成会議〔仙台〕
- 31日(火) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」 運営委員会〔仙台〕

### 8月

- 9日(木) 財政主査会
- 10日(金) 正義と平和委員会〔中部教区センター〕
- 13日(月) 全国青年大会実行委員会〔仙台〕
- 23日(木) ～26日(日) 日本聖公会全国青年大会(宮城県各所)
- 26日(日) U26 特別全国集会〔仙台〕
- 30日(木) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」 運営委員会〔仙台〕
- 30日(木) 神学教理委員会

### 9月

- 4日(火) ～6日(木) 管区共通聖職試験
- 10日(月) 正義と平和・沖縄プロジェクト〔沖縄〕
- 14日(金) ～17日(月) 宣教協議会〔浜松 カリアック〕
- 18日(火) 礼拝委員会
- 20日(木) 文書保管委員会
- 24日(月) 青年委員会〔中部教区センター〕

(次頁へ続く)

### ■管区事務所夏期休業

8月20日(月)～8月24日(金)の間夏期休業します。よろしくお願いたします。

緊急の場合は総主事まで連絡ください。

受聖餐者総会資料と決議録、各種委員会記録、教会報、各種イベント(バザー、講演会、音楽会、キャンプなど)記録、各種記念写真(撮影記録等の記入が望ましい)、土地・建物登記書類と図面・関係書類と見積書、契約書など、教会が法人の場合は各種登記書類」の保存が求められています。(日本聖公会第56(定期)総会決議録54～55頁参照)

これらの資料は、教会の年史作成の時には非常に役立つものです。過去との対話をするためにはこれらの資料が必要でしょう。次の時代に引き継ぐという視点を、教会に派遣された牧師は明確に持っていなければならないと思います。このたび『日本聖公会150年の航跡』が出版されましたが、その編者である浦地洪一司祭は、いろいろなところからの資料を集めたこともあります。ご自分でも資料を保管しておられ、それらを駆使して執筆されました。これも資料があったからであることは自明のことです。管区の文書保管委員も方々も、歴史資料の収集、整理、保管のための作業を黙々となさってくださっています。その一次資料が一つひとつの教会で生まれるのです。

私の経験から、資料の保存が苦にならない方法は、印刷された資料、手にした資料はまず最初に保存用ファイルに綴じるのです。それから配布する行動に入ることです。ほかのものもそうですが、この原則を持ちますと便利です。たとえ

ば、週報や月報・教会報が印刷されたら、信徒の方々に配るための作業をする前に、まずファイルに綴じます。すると歴史資料として残すことを忘れません。このような地道な作業が、歴史を作っていくのでしょうか。大切な宝が捨てられないようにしたいものです。

そして、未来の方々が「今の過去」との対話をしつつ、さらにその時の宣教活動に励まれていくのではないのでしょうか。古い汚れた紙にも目を留めてみましょう。もっともそのように思われない資料保存が大切ですよね。

(前頁より)

25日(木) 管区共通聖職試験委員会  
28日(金) 聖公会/ローマ・カトリック  
教会合同委員会

10月

9日(火) 聖公会・ルーテル教会協議  
会〔ルーテル市ヶ谷センター〕

10日(水)～12日(金) 人権セミナー〔北海道〕

&lt;関係諸団体会議等&gt;

8月3日(金)～5日(日) 比叡山宗教  
サミット

21日(火)～23日(木) 聖公会関係  
学校教職員研修会〔神戸〕

## □常議員会

第59(定期)総会後第1回 6月29日(金)

<主な決議事項>

### 1. 常議員会書記選任の件

信徒常議員 山田益男氏を選任

### 2. 「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員 交代の件

池住 圭氏から影山博美司祭に変更  
一池住 圭氏がプロジェクトの総合ディレク  
ターに就任したことによる

### 3. 年金維持資金管理委員会と女性デスクの 任務継続の件

2012年5月から、さらに2総会期の継続  
を承認すること。  
一それぞれ2012年5月で任期が満期と

なったが、この委員会とデスクの任務が未  
だ残されているため

### 4. 第59(定期)総会期の諸委員等選任の件 <諸委員氏名を14ページ以降に掲載>

### 5. ナザレ修女会に関する件

管理人後任等に関して意見交換

### 6. 首座主教の海外出張の件

7月3日から13日まで、米国聖公会総会  
(インディアナポリス)出席のため  
次回および次々回会議

2012年9月12日(水)、11月20日(火)

## □各教区

### 神戸

・聖職按手式 9月22日(土)11時 神戸聖  
ミカエル大聖堂 執事按手:志願者 聖職

候補生ポール・マイケル・トルハースト

ド教会南ケララ教区(ジョン・グラッドストーン主教)を加えてください。

**九州**

- ・7月16日(月)第105(臨時)教区会九州教区主教選挙 4人の候補者が推薦され、13回の投票が行われた結果、司祭ルカ武藤謙一師(横浜)が選出された。



† 逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

ジーン・S・レーマン (元米国聖公会宣教師・立教大学)

2012年6月29日(土) 逝去(90歳)

## ◆代祷表の訂正

8月25日(土)世界の聖公会の代祷に、南イン

## 《人 事》

**東北**

- |                  |             |  |
|------------------|-------------|--|
| 主教 ヨハネ加藤博道       | 2012年7月1日付  | 磯山聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。   |
| 司祭 ヤコブ林 国秀       | 2012年6月30日付 | 磯山聖ヨハネ教会管理牧師の任を解く。   |
| 司祭 フランシス長谷川清純    | 2012年7月1日付  | 磯山聖ヨハネ教会協働を命じる。東北教区「磯山聖ヨハネ教会復興プロジェクト」委員長を委嘱する。   |
| 司祭 ヤコブ八戸 功       | 2012年7月1日付  | 健康上の理由により、8月31日まで休養とする。  |
| 主教 ダビデ谷昌二(沖縄・退)  | 2012年7月1日付  | 福島聖ステパノ教会牧師館に居住。東北教区主教および福島聖ステパノ教会管理牧師との協働により、教会の礼拝、牧会および地域への奉仕活動を担われる。期間は原則として1年。                       |
| 司祭 ヨハネ木村幸夫(大阪・退) | 2012年7月1日付  | 日本聖公会東日本大震災被災者支援「いっしょに歩こう!プロジェクト」の支援活動の一環として、小名浜聖テモテ教会に居住し、小名浜聖テモテ教会管理牧師と協働する。期間は大阪教区の公示に従い2013年5月までとする。 |

**東京**

- |               |             |               |
|---------------|-------------|---------------|
| 司祭 スコット・ウォーカー | 2012年6月30日付 | 聖オルバン教会臨時牧師解任 |
|---------------|-------------|---------------|

**京都**

**日本聖公会社会福祉連盟第53回大会・研修会** テーマ:「信州における『人の尊厳』を考える歴史と未来」 ご案内  
 10月25日(木)13時~10月27日(土)12時  
 ■会場:信州松代ロイヤルホテル、新生病院・新生礼拝堂(小布施) ■参加費:3万円/交通費別(自費負担参加者には参加費補助有り)  
 ■申込締切:9月15日 ■記念講演:新生病院院長・宮尾陽一氏、映画『想い出のアン』著者・

和田登氏(作家・児童文学作家。日本で最初に「マツシロ」問題に取り組みされたキーパーソンの存在です) ■松代大本営、新生病院、小布施の街並みを見学するほか、新生病院・新生礼拝堂が舞台となった映画『想い出のアン』を鑑賞し、戦時下における受難の時代を振り返りたいと考えます。 ■詳細は各教会宛送付の案内をご覧ください。 ■問い合わせ:新生病院チャプレン・新生礼拝堂牧師補 執事 石田雅嗣

聖職候補生 ヤコブ岩田光正 2012年6月16日 執事に按手される。  
 執事 ヤコブ岩田光正 2012年6月16日付 大津聖マリア教会牧師補に任命する。

### 大阪

司祭 ヨハネ木村幸夫(退) 2012年7月1日付 聖テモテ・ボランティアセンター(東北教区小名浜聖テモテ教会内)の現地調整者として勤務することを委嘱する。ただし、任期を日本聖公会「いっしょに歩こう!プロジェクト」が期間満了する2013年5月までとする。  
 上記に伴い、大阪城南キリスト教会における主日を中心とする勤務を解く。

### 九州

司祭 ステパノ中村 正 2012年6月21日付 久留米聖公会佐賀祈りの家伝道所の管理牧師に任命する。

### 《教会・施設等》

東北教区主教室・教務所 仙台基督教会・教区会館改築に伴い、仮事務所に移転。(2012年7月4日～) 980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町7-32 パセオビル2F (電話・FAXは変更無し)

仙台基督教会(東北) 礼拝場所の移転 7月15日より上記パセオビル2階ホールに仮移転し(約1年3ヵ月)、礼拝を行う。

仙台基督教会牧師館 移転先 980-0822 仙台市青葉区立町27-26 905号(電話変更無し)

聖公会八王子幼稚園(東京) FAX番号変更 042-649-8393

宮津聖アンデレ教会(京都) 郵便物送付先

625-0036 舞鶴市字浜40 東舞鶴聖パウロ教会気付

久留米聖公会佐賀祈りの家伝道所(九州)

2012年6月21日付 伝道所設立認可

所在地:佐賀市水ヶ江町2丁目298番地6(〒840-0054)

管理牧師:司祭 中村 正

## 2012年沖縄週間・沖縄の旅・報告 6月22日(金)～25日(月)

### 「命どう宝～わたしたちが頼るべきもの～」

団長 司祭 アンデレ磯 晴久

私は今回の「沖縄の旅」を前に、「テッサ・モリス・スズキ『過去は死なない:メディア・記憶・歴史』岩波書店2004.8」を読んだ。この本に出てきた2つのことばが、心に残った。ウィリアム・フォークナーのことばとして紹介されている「過去は死んでいない。過去にさえなっていない」(6

頁)と、テッサ・モリス・スズキ自身が大切にしている「historical truthfulness 歴史への真摯さ」(33頁)ということばだ。今回の旅は、これら2つのことを痛感させられるものとなった。スタッフ・参加者:48名。

<1日目>

## ■フィールドトリップ「自衛隊那覇基地と米軍基地」

案内：又吉京子さん（沖縄キリスト教センター・ぎのわんセミナーハウス）

まず私たちは、瀬長島から那覇空港を望んだ。那覇空港は、米軍が沖縄を占領した後、1947年には民間機も就航し、米軍と民間機が使用する軍民共用空港となった。1972年復帰後、米軍に代わって自衛隊が配備され現在に至っている。現在那覇空港は日本全国で5番目の過密空港となっており、自衛隊機の緊急発進や訓練も年間発着回数の5分の1を占め、ニアミスなどトラブルも絶えないと言う。そして沖縄には多くの米軍空軍基地がある。沖縄の青い空は、いつも危険と隣り合わせなのだ。

続いて、私たちは嘉手納基地に隣接する砂辺地区を訪れた。嘉手納基地にはF22ステルス戦闘機が配備され、昼夜を問わず、沖縄の人々の日常生活の中に爆音が響き渡っている。以前私も夕刻に、訓練から帰着するこの戦闘機を、砂辺の海岸で見た。その不気味な姿と爆音の恐ろしさ・異常さはことばにできない。「もういやだ！」多くの人々が豊かな伝統的文化をもったこの地区を離れて行った。「基地外基地」言われるように、米軍将校のためのマンションや貸し家がどんどん建てられている。空いた土地は日本政府によって買い上げられ、その費用や建築費は私たちの税金から拠出されている。

このフィールドトリップの最後に私たちは、米軍嘉手納基地に向かった。アジア太平洋地域最大の米空軍基地で、嘉手納町（町の83%が基地）、沖縄市、北谷町にまたがる。「道の駅かでな」から広大な滑走路がよく見える。珍しい劇場型基地である。とにかくでかいし、危険だ。道の駅の前には、「安保の見える丘」がある。嘉手納基地の土地の9割は、沖縄県民の所有地だったが、戦中・戦後を通して、米軍占領と朝鮮戦争を機に強制没収され、今に至っている。お話を聞きながら、嘉手納基地は縮小どころか、米国防衛の緊急展開に絶好の場所として、その機能が強化されていっているように感じた。

基地の存在そのものが問題だが、嘉手納基地をはじめ米軍専用施設の75%が、日本の面積の0.6%の沖縄に押しつけられているということ、私たちは注視しなければならない。

沖縄の方から、「本土復帰とは何だったのか」という声を今回よく聞いた。「平和憲法を求めたのに、安保条約を押しつけられ、平和憲法はいまだ一度も沖縄で適用されたことがない。基地は撤去されるどころか自衛隊までやってきてしまった。自衛隊は米軍との連携を更に強めている。垂直離着陸輸送機MV22オスプレイの配備も、無理やり進められようとしている。」戦争は、過去にさえなっておらず、今も形を変えて継続されているのだ。

## ■復帰 40 年の沖縄の現状と教科書問題

講師：高嶋伸欣さん（琉球大学名誉教授）

1日目の夜、高嶋伸欣さんの講演を聞いた。高嶋さんは沢山の資料を用意下さり、多岐に亘って講演下さった。まさに目から鱗であった。私自身知らないことだらけであったことに愕然とした。たとえば、1952年4月28日発効されたサンフランシスコ平和条約第3条である。第3条はいう。「日本国は、北緯29度以南の南西諸島……を合衆国を唯一の施政権者とする信託統治制度の下におくこととする国際連合に対する合衆国のいかなる提案にも同意する。このような提案が行われ且つ可決されるまで、合衆国は、領水を含むこれらの諸島の領域及び住民に対して、行政、立法及び司法上の権力全部及び一部を行使する権利を有するものとする。」北緯29度と言うのは1953年クリスマスに奄美群島が返還され、北緯27度が沖縄と本土を分かつ境界線となっている。日本国家は、沖縄を放置し続けてきた。「琉球処分」、大本營の沖縄「捨て石」作戦、上記の対日平和条約3条、1972年の沖縄返還（「祖国復帰」）も基地の現状を放置したという点において同様である。

米国の沖縄支配のキーワードは「暫定性」である。しかし戦勝国だからといって、特定国の領土を長期に渡って支配することは、国連憲章に違反する。また、この平和条約締結と基地の

固定化の背後には、天皇制を護持するための裏取引があったという。沖縄は、捨て石であり続け、現在に至っている。高嶋氏は、そこに沖縄への差別があると指摘された。

高嶋氏の探求心や情報収集の姿勢、歴史認識をうかがいながら、私は上記の「historical truthfulness 歴史への真摯さ」ということばを思っていた。「新しい教科書をつくる会」問題など、様々な情報が飛び交っており、それを遮断することは難しい。歴史的真相とされていることのもっと向こう側、もっと奥を見つめる真摯さこそ、わたしたちに求められていうことではないか。



平和行進

<2日目>

### ■平和大行進

私たちは、平和行進に参加するため小禄聖マタイ教会に集合した。これは沖縄戦の追体験として、南部の魂魂の塔まで15.5<sup>キロ</sup>を歩く。4つのポイントで、証言を聴き、共に祈る時を持った。第1ポイントは「保栄茂」、第2ポイントは「むくえ橋」、第3ポイントは「真壁(真和の塔)」、第4ポイントは「魂魂の塔付近の海岸」であった。私たちには地図があり、ナビゲートしてくださる方がおり、伴走車があり、水分補給もある。完歩できてほっとしたが、私たちは守られて歩けただけだ。逃げまどう当時の人々は、行く宛ても定かではなく、



慰霊の日礼拝

雨あられのように砲弾は飛び交い、多くの人々は途上にて死んで行く。死体の上を乗り越えて行かなければならなかった。その恐怖はいかばかりだっただろう。証言の中で、3ヶ月の子と3歳の子を連れた母親が、「兵隊さんが、激しくなったから、負傷者を連れてこの壕の中に入って来て、“お前たち子持ちは子どもが泣くから出て行け”といわれて追い出されました。」と証言している。軍隊は住民を守ってくれないのだ。幸いこの母子は、地獄絵図の中を生き抜かれた。沖縄戦を生き抜かれた方々が、風化せぬようと多くの証言を残して下さっているが、その背後には数知れぬ死者がおられることを、私たちは忘れてはならない。人が亡くなることを「息を引き取る」という。息を引き取る人の周りに集う人々にとっては、今亡くならうとしている人の「息」を引き取ることでもあると聞いたことがある。沖縄戦を体験された方々の「息」、それは苦しみ、恐怖、悲しみ、いたわり合う心、そして平和への願いを私たちは引取らないといけな。いろいろなことを考えさせられる貴重な平和行進であった。

<3日目>

### ■慰霊の日礼拝

私たちは、ホームステイさせて頂いた教会やハンセン病療養所での主日礼拝と交流会を終えて、午後、沖縄教区主催の諸魂教会での慰



講演「福島の今」 東北教区 越山健蔵司祭

霊の日礼拝に参集した。説教者の金ジョンス司祭は、「基地問題をはじめ平和の実現ということ考えた時、自分たちの力は本当に小さく思える。しかし私たちには平和の主イエスがおられるのではないか。平和への希求と希望をなくしてはならない」と語りかけられた。「イエスがおられるじゃないか」励ましと勇気を頂いたメッセージだった。その後、講演会に移り、東北教区越山健蔵司祭が、東日本大震災と東京電力福島第1原子力発電所事故で、今も大きな困難と不安の中にある人々のこと、またご自身も含めた被災地の人々の苦悩について語られた。

お話を通して、私たちは基地問題と原発問題が根っこでつながっていることに気づかされた。基地も原発も立地市町村は過疎地で貧しく他の産業が振るわない地域であり、交付金や地域振興基金に依存している。大きなお金が動くのである。そして基地や原発から抜け出せないという状況に追い込まれている。平和ではなくお金、いのちではなくお金になっている。これを逆転しなければならない。しかしこれは現地の人々だけでは解決しようのない問題で、国民全体の問題として捉え、社会の在り方を変えていかなければならない課題である。

伊江島の反戦平和資料館「ヌチドウタカラの家」の表には、

全て剣を取るものは、剣で滅びる

基地をもつものは、基地にて滅ぶ

核を持つものは、核にて滅ぶ

と書かれてあると聞く。私たちはこのことばを深く味わう必要がある。

<さいごに>

今回の旅も沖縄の皆さまに「おんぶにだっこの旅」となってしまった。心から感謝申し上げたい。私たちは、どう歩みを始めればいいのか。平和行進の折、平和ランをしている方々がおられ、彼らのユニフォームの背中には、恒久平和にゴールはないとあった。歴史への真摯さをもって、どう生きて行くのか、普段の生き方が問われていると感じた。また、旅のしおりにある沖縄週

間ポスターの関連記事の中で、ジャーナリスト由井明子さんの「沖縄県民よ、アリの群れとなり、巨大な象に挑め、諦めることなく相手が聞き入れるまで訴えよ」というよびかけが紹介されていた。

これは沖縄県民へではなく、私たちへの呼びかけである。「キリストに結ばれて歩みなさい。」(コロサイ2:6) 私たちは平和の主に結ばれて、平和と正義を希求するアリとなり歩み出すように促しを受けている。(写真提供・前田良彦司祭)

## 2012年 沖縄の旅(命どう宝)に参加して

中部教区 一宮聖光教会 稲富 茂樹

約十年ぶりに五?六回目の沖縄へ、これまでの観光目的とは一味も二味も違う、差別・戦争・基地・教育などの問題を実感する旅に。慰霊の23日(日本軍現場責任者の自決日、実際の戦闘終結記念日ではないとのこと…)に、那覇近郊の小禄から南海岸の糸満市米須にある魂魄の塔まで、全然「コンパクトウ」ではない15<sup>キロ</sup>の平和行進、その他の教会行事に参加。

琉球大学高嶋教授の「復帰40年の沖縄の現状と教科書問題」、東北から参加の越山司祭による「福島は今」講演他(泡盛も?)に深く感銘。とにもかくにもパウロ書簡にもあるように「自分は何か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです」(コリントの信徒への手紙I:8章2節)を実感させられました。

日曜夜の小禄聖マタイ教会での交流会では、準備して頂いたフォーク・ギターを変則チューニングにしてのスライド奏法隻腕演奏を披露、参加の皆様に喜んで戴いた様で良い交わりの時となりました。

行進の後の昼食レストラン「百花の風」傍らの畑で、流行のトロピカル果実ドラゴンフルーツを付け、砂漠から出戻った森のハシラサボテンを

意味するヒロケレウス属「三角柱」の蕾(長さ30cm弱)を発見、「月下美人」と同じく一夜咲きの巨大短命花を何時か実際に見てみたいものです。



## 2012年沖縄の旅に参加して

沖縄教区 聖職候補生 ルシア並里輝枝

今年は、沖縄週間／沖縄の旅が始まる前に台風が二個続き悪天候の中、開催できるのか心配したのですが、参加者皆さんの日頃の行いが良かったのか、開始直前から沖縄の青い空が迎え

てくれました。最初に那覇空港の自衛隊機と民間機との共同使用による危険、砂辺地区の米軍住宅、嘉手納基地の実態説明を受け、5時から開会礼拝オリエンテーションの後、高嶋伸琉球大学名誉教授の「復帰40年の沖縄の現状と教科書問題」の講演がありました。高嶋先生は、日本と沖縄の歴史の問題点を長年研究しており、沢山の資料を基に客観的に説明してくれました。基地のない平和な島沖縄が欲しいと望んでも依然として基地撤去にならない、日本政府、アメリカ政府の思惑に振り回される沖縄、どんなに叫んでも無くならないのはなぜ?に高嶋先生の説明で納得できました。平和行進では、炎天下の中、証言を聞く事で64年前の戦争を想起し祈りは胸の詰まる思いでした。

慰霊の日礼拝後は越山健蔵司祭に「福島は今」の演題で講演をして頂き、原発の恐ろしさを知ると同時に福島も沖縄も構造的に同じだと思いました。今後も祈りと支え合う事を痛感しています。(三原聖ペテロ聖パウロ教会)

## ■海外出張報告

メリノール会宣教研修所 2012 プログラムに参加して

### イエス・キリストの譬え話を中東の視点から学ぶ

司祭 ヨハネ 黒田 裕

さる6月22日～6月30日(研修日程:24日～29日)、私は、米国ニューヨーク州、メリノール会宣教研修所のプログラムに参加する機会を得た。今回の研修の目的は、説教の前提となる新たな積義の方法や視点を学ぶことであった。この目的の通り、説教作成の基盤となる積義について新たな方法や視点を学ぶことができた。そしてなによりも、当初期待していた通り、自身が担当しているウィリアムス神学館での説教や聖書研究、また教区や司牧教会などの聖書研究などに大いに還元できる手応えを感じることができ

た。

具体的に参加したのは「メリノール会宣教研修所2012プログラム」である。主催団体であるメリノール会は、1911年ニューヨーク州メリノールに設立されたローマ・カトリック教会の女子修道会で(なお半年先に男子修道会が創設されており、現在も同じ敷地内に併設されている)、アジア(日本、韓国、中国、フィリピン)、ラテン・アメリカなどに宣教者を派遣している(詳細は、<http://www.maryknollsisters.org/catholic-mission/> 参照)。修女会の本部では研修活動に



も力を入れているようで、毎年5～10月に、日曜から金曜を1ユニットとして10講座が開講されている。今回の講座はそのうちの一つである。

私が受講したテーマは「ルカ福音書におけるイエスの譬え～中東の視点から」で、講師はK. E. ベイリー師であった。彼は長老派牧師、聖書学者(専門は新約聖書の文化的背景と文学様式の研究)であり、米聖公会ピッツバーグ教区のキャノンでもある。中東で40年にわたり司牧した経験から、自身の体験やパレスチナのキリスト者たちから耳にした当地のエートスや聖書の読みをコンテキストとして、これまでの欧米中心の神学とは異なる聖書の洞察を提示している。著書・論文は多数あるが、邦訳されたものとしては『中東文化の目で見たイエス』、『ヤコブと放蕩息子』がある。ストーリー・テラーでもあり、ご自身の研究成果を生かして、脚本と監督をこなし「放蕩息子」を映画化している。

さて、当日のプログラムであるが、ディスカッション等の時間を除くと60分から75分の講義が一日に3コマ行われ、比較的ゆったりと組まれていた。しかし、「家を建てた二人のたとえ」(※以下、紙幅の関係で章節は示さない)、「シモンの家にいた女性」、「善い羊飼いと善い女性のたとえ」、「憐れみ深い父のたとえ」(※「放蕩息子のたとえ」/この箇所にも最もエネルギーが注がれていた)、「不正な管理人のたとえ」、「ラザロと金持ち」といった6つの譬え話しの他、例えば「誕生物語」、「ナザレ宣言」、「漁師を弟子にする」、ルカの十字架の神学といった関連箇所(その他旧約からも)を併せると、扱われた箇所はかなりのボリュームにのぼったといつてよい。

では、こうした譬え話を中東文化の視点から見ると、どのような解釈になるであろうか。ごく一部だけではあるが、「憐れみ深い父のたとえ」(「放蕩息子のたとえ」)、しかも弟息子が帰ってきた場面だけでいえば次のようになる。そもそも弟息子は中東社会ではありえない「生前贈与」(父を殺すことを意味する)を受けたことで、象徴行為として壺を割るケザザ(kezaza)セレモニーという儀式によって共同社会から絶たれる

べき存在であった。また、父が弟息子を見つけ走り寄るところは、聖書には明示されていないが、中東文化の感覚からいえば、絶たれるべき存在が帰ってきたことで、彼を処するためにその場に多くの村人が集まってきていたのがむしろ当然の読みということになる。そして、父が走ったのは、こうした村人から自分の息子を守るためであったし、履物を履かせるのは、履物がないのは奴隷を意味するからであった。これまでの欧米主導の教会では、この箇所は弟息子の悔い改めが強調され、それによって父が彼を受容した、と解釈されてきた。しかし、中東文化の視点から明らかとなるのは、この譬え話の中心が、犠牲を払った価値高き父の愛にあることである。それが行動で示されたことによって、息子は、(失われていたのに)見つけられたというその愛を受け容れるのである。

このあたりにベイリー師の神学の際立った特徴があるのだが、その予備的作業には、3つの並列法(①直線的並列法、②逆転並列法〔交差配列、環状構造とも呼ばれる〕、③段階的並列法)が用いられている。これをテキスト分析の土台としつつ、中東文化や習慣を聖書のコンテキストの中心と捉えている、というのが同師の聖書解釈の基本的な方法論である。こうして、これまでの欧米中心の神学とは異なる洞察を浮かび上がらせているのである。ただし、それでいて、従来の神学をただ否定するのが目的ではない。2000年間忘れ去られていた、現在1,500万人とも言われる中東キリスト者への認識とその聖書の読みを回復し、オルタナティブな聖書解釈を提供するというのが同師の目指すところであろう。既存の神学への幅広い見識そして、D. ボンヘッファーやD. T. ナイルズ、L. ニュービンといった神学者たちの発言との並行に触れていたことも印象的であった。また、こうした理論的な側面だけでなく、ストーリー・テラーとしての同師の語りも大変特徴的であった。通常私たちが見聞きしてきた講義形式の話しが、所与の箇所のコンテキストとなる中東の生活習慣の例話(これらは40年にわたる中東での司牧生活

のなかで師が見聞きしてきたこと、また、地元の神学生たちから聞いた話しが元になっている)となると、その語りは舞台俳優のようになり、身ぶり手ぶりに加え、ときには席を立てて実際に立ち居振る舞いをしながら場面を説明して下さった。それでいて過度な演出があるわけでもないため、決して芝居じみていたわけでもなく、無理なく話しに入っていくことができた。このあたりもベイリー師の真骨頂であり、今回そこに触られたことも有益な経験となった。こうした演技はともかく、彼の聖書解釈の方法論は、説教のための釈義としても建設的な視点と洞察とを与えてくれるであろう。それらを今後は是非、神学生たちと分かち合いたいと思う。関心のある方は師の著作『中東文化の目を見たイエス』(森泉弘次訳、教文館、2010年)に、その神学のエッセンスが凝縮されており、今回の講義でもこの書と重複する事柄がいくつも語られていたので参照をお勧めしたい。また今回の研修の更に詳しい報告

は、次号のウイリアムス神学館紀要『ヴィア・メディア』(第7号)に執筆する予定である。

なお、研修の参加者は30人ほどであったが、半分ほどは、メリノール会のシスターたちであった。サバティカルで一旦帰国したシスターたちも何人かおられたが、多くは、ボリビア、ペルー、フィリピン、中国、日本などで長年にわたり宣教活動をされ当地での職務を退かれ修道院に戻ってきたシスターたちであった。そうした方々のホスピタリティと深い霊性に触られたことも大きな収穫であり感謝であった。最後となってしまったが、現地で大変お世話になった神学校同窓の友でMJM(日本人会衆の司牧と宣教に奉仕)元ミSSIONナー・景山恭子姉への言い尽くせぬ感謝と共にこの稿を閉じたいと思う。



## 東日本大震災支援

### 「いっしょに歩こう!プロジェクト」 仙台オフィスから ①

— 心に寄り添う支援を —

総合ディレクター (副本部長)  
クリスティーヌ 池住 圭

2012年5月の総会をもって退任された中村淳司祭から、総合ディレクター(副本部長)の任を引き継ぎました。当プロジェクトは原則2年間と定められていますから、来年5月までの任期ということになります。最後の1年間の活動をどのようにしていくのか、具体的には、どのプログラムを終息させ、どのプログラムを継続させて行くのか、そして、いずれの場合にも、それぞれをどのように進めて行くのが現在の大きな課題です。これは、「日本聖公会・東日本大震災被災者支援活動方針」の一つである、『被災地の方々の生活

と地域の「再創造」に向けいっしょに歩きます』を、最後の年にいかに実践して行くのかということではないかと思います。

支援活動を通して、震災前からある問題がより深刻な形で顕在化して来ています。例えば、過疎化、少子高齢化、経済格差、障がい者や外国人在留者に対する政策。更に、福島第一原子力発電所の爆発によって故郷を奪われた大勢の人たちの将来の見通し。人が大切にされていない現実があります。全て人の生命と尊厳に関わる重要な問題です。単に震災前の状態を回復する「復旧」ではなく、全ての人の生命と尊厳が最も重んじられる生活基盤の確立を目指すこと、そのためには、これまでの産業・経済のあり方を再検証し、その上で人々の生活と地域を創造的につくり上げること、このことが、まさに「再創造」に向けていっしょに歩くことに他ならないのだと思います。

当プロジェクトが当初から目ざしている「支援」は、徹底して困難を負って生きる人々と共に歩む、そして支援の届きにくい人たちのいる「場」に出かけて行く、ということです。スタッフそれぞれが、それぞれの方法で被災者と出会い、そのつながりを大切にしながら支援の輪を広げて来ています。震災から1年余を経て、当初の生命をつなぐための緊急支援から、個々の生活や心に寄り添うことが求められるようになっていきます。次第に、個別の支援が多くなって来ていることも事実です。これは、ともすると非効率とも思われがちですが、このような、つながりから生み出される支援が最も大切にされなければならないことの一つで、これこそが一人ひとりの生命と尊厳が重んじられることに他なりません。

このような中、2つの新しいベースが立ち上げられました。一つは6月9日に開所式を迎えた、長谷川清純司祭を長とする「被災者支援センター・しんち」、もう一つは6月28日の運営委員会でその設置が決議された、影山博美司祭を長とする「福島(仮称)ベース」です。

「しんち」はまさに、これ迄の1年間の地道な出会いと活動によって育まれた、つながりから生み出されたベースと言えます。「福島(仮称)ベース」は、放射能汚染による複雑な問題を抱える地域ゆえに、中々進めることができなかった活動が、今後活発に展開されるベースとして大きく期待されています。また、今年5月で閉鎖を決めていた小名浜聖テモテ・ボランティアベースは、更に1年間の延長を決め、第二期をスタートさせました。これは、地域の人たちの強い要望によるものです。

多くの課題と、大きな希望を持った最後の年。今後も、4つのベースや仙台圏に軸足を置きながら、生命と尊厳が最も大切にされる地域の「復興」と「再創造」に向けて、さまざまな困難を抱えながら生きる被災者と、そして変わらぬ支援とお祈りを下さる皆さまと一っしょに歩いて行けたらと、心から願っております。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

4年ごとに開かれている「全国青年大会」が今年は東北の地で開催されます。大会運営を中心的に担っているのが当プロジェクトのボランティア・スタッフたちで、プロジェクトは、この大会を後援しています。

管区・青年委員会協力委員 池住 圭

8月23～26日、仙台にて全国青年大会が開かれます。「re:member～ひかりを灯そう～」とテーマを掲げて、昨年起きた大震災の被災地巡りやそれに関する講話を聞きます。これまで多くの方はメディア等を通じて情報を得てきたことと思います。しかし実際に目で見て、肌で感じて、分かち合ってもらえたらと、たくさんの想いをこめて企画しました。また参加された皆様も一人でも多くの青年と関わり、神さまの御守りのうちにつながりを持って頂けたら幸いです。決して忘れられない、忘れてはいけない「3月11日」をみんなで学び心に留め、一っしょにひとつのひかりを灯しましょう。

全国青年大会2012 in 東北実行委員会  
副会長 パトリシア 赤坂 唯

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/> ☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。  
[comm-sec.po@nskk.org](mailto:comm-sec.po@nskk.org) 広報主事(鈴木)宛て

 **いっしょに歩こう!**  
**プロジェクト**  
日本聖公会東日本大震災被災者支援

ホームページ <http://nskk.org/walk/>

## 大韓聖公会出身教役者会の集い -報告-



司祭 金 大原 (立教大学チャプレン)

同郷で、同じ仕事をしている人たちが久しぶりに会い、母国語で話し合いながら持つ交わりの喜びは、経験のある人だけが共感できることでしょうか、誰でも想像することはできると思います。日本聖公会の管区と各教区の配慮と支援のお陰で、去る6月4～6日の三日間、北海道の札幌で、日本に勤めている韓国人教役者15名とその家族との集いを開くことができ、言葉では表現できないほどの喜びと意味のある時間を過ごすことができました。

初日。札幌近郊の定山溪温泉のとあるホテルに40人が集まりました。到着後しばらくは自由時間としました。平日だったのでお客さんが少なく、わたしたちだけのために備えられた場所のようでした。特に、まだ正式のプログラムが始まっていないのに、子どもたちはすぐに親しくなり、本来から兄弟姉妹だったように見えるほどでした。しかし時間になると、子どもたちのおしゃべりを静めて開会の礼拝を捧げ、相互の親睦を図る時間を持ちました。教役者たちはたまに会っていますが、ほとんどの家族は初めて会いましたので、家族全員を紹介し、子どもたちに小さなプレゼントをあげることだけでも、とても豊かな雰囲気を作り上げることができました。大人数で年齢の差もありましたので、プログラムを少し早い時間に終えましたが、皆は離れずにあちらこちらで三々五々集まって、夜遅くまで話に花を咲かせていました。

二日目。札幌市に移動し、北海道教区の事務所を訪ねました。植松主教様より歓迎の温かいお話を伺い、教区関係者の方々から昼食のもてなしを受けました。韓国のキムチまで用意されるなど、心の届いた料理には感動せざるを得ませんでした。食後は皆で聖歌を歌い、お祈りを捧げることで、神様の愛の中で一緒に兄弟姉妹で

あることを確認することができました。名残惜しかったです、そこでおいとまし、札幌市内でフィールドトリップを行ないました。この日の夜も自由にグループをなしてそれぞれ対話をしていました。

三日目。最後の時はあまりにも早く近づいてきました。李香男(イ・ヒャンナム)司祭が勤めている聖ミカエル教会を訪ね、教会の現状と着任してからの経験などのお話を伺いました。その後、教役者だけで協議する時間を持ち、皆で閉会の聖餐式を行うことで、すべてのプログラムを終了しました。特に韓国聖公会を代表して来られ、閉会礼拝の説教をなさった金サムエル司祭は、「韓国の多くの司祭や信徒が、日本にいる宣教師はもちろん日本聖公会のために、そして被災地の人々のために祈りを捧げている」と言ってくれました。国が違い、言葉が違って、心はキリストに向かった信仰の中で一つであることを実感し、このような心を込めて、捧げられた献金を東日本大震災支援のため「いっしょに歩こう! プロジェクト」へ送ることにしました。そして、この日も聖ミカエル教会の信徒の方々より手厚いもてなしを受けました。心から感謝いたします。

この集いを企画する時、一番気になったのは子どもたちのプログラムをどうするかということでした。子どもは大人よりも速く日本に適応し、言葉もやはり速く習得しますが、逆に韓国語が苦手な子がいるので、容易に交わることができるかを気にしていたのです。でも、それは要らない心配でした。子どもたちはすぐに親しくなって遊びだしたので、大人たちはその様子を見ているだけでも大きな喜びでした。

実は、今回の集いの主な目的は憩いの一時を一緒に過ごすことでした。忙しい日常を止めて休息を取ることの重要性は説明する必要もないで

しょうが、容易なことではないと思います。せっかくの機会なので各々の状況や経験を分かち合う時間になってほしいという意見もありましたが、堅い雰囲気会議のようなプログラムではなく、経験を分かち合い、慰め合い、励まし合う方法はいろいろあると思い、大きなプログラムは企画しませんでした。ただ、すべての日程を全員で動けるように企画しました。やはり思った通りに、一緒にいることだけで充分でした。そして、欠かしてはいけないもう一つは、食事の時間です。もちろんほとんどの料理は美味しかったです。でも、それだけではなく、気のおけない人たちと一緒にだったので、もっとも良い時間になったのではないかと思います。2千年前、イエス様がファリサイ派から「大食漢で大酒飲みだ」と批判されながらも、隣人と交わって食べたり飲んだりしていた理由とその喜びが分かるようでした。



短い期間でしたが、別れる時、涙を流す子どももいました。長い時間話し合うことはできませんでしたが、言葉より大きなことを分かち合うことができました。思った以上に大きな慰めと励まし、そして力を得ることができました。

このように良い時間を過ごせるように配慮してくださった日本聖公会管区と各教区の関係者の皆様、そして韓国人宣教師を受け入れ、協力しながら神様の信仰共同体を成し遂げ、宣教に尽力しておられる、すべての教会の教役者と信徒の皆様へ感謝を申し上げます。

## 新刊紹介

### 『日本聖公会宣教150年の航跡』

編者／浦地 洪一

発行／日本聖公会管区事務所

本書は宣教150周年を迎え、日本聖公会がこの国の歴史の中でたどってきた姿を克明に記すために刊行されたものである。本書が用いた資料は、日本聖公会総会決議録・日本聖公会総会後常議員会決議録・日本聖公会管区事務所だより・「日本聖公会百年史」・「あかしびとたち」・「史料が語る戦時下の日本聖公会」・「日本聖公会各教区史と史料」・「ランベス会議の報告・決議」・その他全国各地の史料など広範囲に及ぶ。これら膨大な資料を生かして、各時代における日本聖公会の宣教の姿勢・課題を出来得る限り丹念に記録しつづけたところに本書の特質が有る。章建ては、1「日本の夜明け」、2「伝道活動の展

開」、3「日本聖公会の組織成立」、4「地方部・教区の発展」、5「激動の時代の日本聖公会」、6「戦後教会の復興」、7「自立と覚醒の時代」、8「M・R・I理念と宣教協議会」、9「制度と機構改革」、10「新しい教会をめざして」、11「人権と平和を求めて」、12「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」…と、前半は時代区分に従って記述し、後半は日本聖公会が当面する大きなテーマを追ってまとめているところに編者の意図が察せられる。近現代の克明な記述と史料に自分の教区・教会のあゆみを対応させて読んでゆくの本書の特色を生かした、ひとつの読み方であろう。頒価1000円で管区事務所で購入可能。A5判・本文522頁

(管区広報主事・鈴木 一)

※現在在庫がありません。申込には同封の案内をお読みください。



**第59(定期) 総会期諸役員・委員**

(2012.6.29)

**首座主教** 主教 植松 誠(北海道)**総主事** 司祭 相澤牧人(横浜)**常議員会(法人責任役員)****首座主教** 主教 植松 誠(北海道)

**常議員** 主教 中村 豊(神戸) 主教 三鍋 裕(横浜)  
 司祭 輿石 勇(北関東) 司祭 佐々木道人(東京) 司祭 西原廉太(中部)  
 池住 圭(中部) 中林三平(横浜) 山田益男(東京)

**主事会議****総主事** 司祭 相澤牧人(横浜)**総務主事** 阪田隆一(横浜) **渉外主事** 八幡眞也(東京) **財政主事** 尾崎茂雄(横浜)**宣教主事** 司祭 矢萩新一(京都) **広報主事** 鈴木 一(東京)**人権問題担当者****担当主教** 主教 大西 修(大阪)

司祭 武藤謙一(横浜) 司祭 井口 諭(東京) 司祭 中島省三(九州)

執事 奥村貴充(大阪)

**女性に関する課題の担当者(女性デスク)**

吉谷かおる(神戸) 木川田道子(京都)

**(常任の委員)****祈祷書等検査委員****委員長** 司祭 大橋邦一(北関東)**委員** 執事 出口 創(京都) 鈴木 一(東京)**文書保管委員****委員長** 大江 満(京都)**委員** 司祭 卓 志雄(東京) 諫山禎一郎(東京)**会計監査委員****委員長** 塚田一宣(中部)**委員** 豊岡 暁(横浜) 松村祐二(北関東)**(常設の委員)****神学教理委員****委員** 司祭 岩城 聰(大阪) 司祭 輿石 勇(北関東) 司祭 広谷和文(北海道)

司祭 西原廉太(中部) 近藤 剛(神戸)

**礼拝委員****担当主教** 主教 加藤博道(東北)**委員** 司祭 市原信太郎(中部) 司祭 笹森田鶴(東京) 司祭 宮崎 光(東京)

司祭 吉岡容子(九州) 司祭 吉田雅人(神戸)

**法憲法規委員****委員** 司祭 上原信幸(神戸) 司祭 長野 睦(横浜) 司祭 山口千壽(東京)

司祭 山本 眞(大阪) 打田茉莉(東京)

**(総会で承認された委員)**

**管区審判廷審判員** (任期 2012年5月～2016年5月)

主教 中村 豊(神戸)	主教 三鍋 裕(横浜)	主教 広田勝一(北関東)
主教 加藤博道(東北)	主教 洪澤一郎(中部)	司祭 小野寺 達(北関東)
司祭 小南 晃(神戸)	司祭 笹森田鶴(東京)	司祭 下澤 昌(北海道)
司祭 中尾志朗(中部)	浅井 正(中部)	東 美香子(九州)
小貫晃義(東北)	宮脇博子(大阪)	山田益男(東京)

**〔総会で立てられた特別委員〕****正義と平和委員会**

委員長 主教 洪澤一郎(中部)		
委員 司祭 磯 晴久(大阪)	司祭 岩城 聰(大阪)	司祭 武藤謙一(横浜)
聖職候補生 大岡左代子(京都)	池住 圭(中部)	(他に1～2名)

**青年委員会**

委員長 司祭 小林 聡(京都)		
委員 司祭 越山哲也(東北)	司祭 野村 潔(中部)	司祭 林 和弘(神戸)
執事 千松清美(大阪)	早川 成(九州)	(他2名)

**年金委員会**

委員 主教 中村 豊(神戸)	司祭 斎藤英樹(北関東)	司祭 原田光雄(大阪)
岩井忠彦(横浜)	小川昌之(東京)	司祭 相澤牧人〔総主事〕
尾崎茂雄〔財政主事〕		

**年金維持資金管理委員会**

委員 主教 中村 豊(神戸)	司祭 鈴木裕二(東京)	内田研吾(東京)
中林三平(横浜)	水澤郁夫(北関東)	三村英夫(東京)
司祭 相澤牧人〔総主事〕	尾崎茂雄〔財政主事〕	

**宣教協議会実行委員会**

委員 主教 五十嵐正司(九州)	主教 大畑喜道(東京)	司祭 木村直樹(北関東)
司祭 野村 潔(中部)	司祭 武藤謙一(横浜)	宮脇博子(大阪)
村井恵子(横浜)	〔総主事、宣教主事は陪席とする〕	

**第2回聖公会平和協議会実行委員会**

委員 主教 大畑喜道(東京)	司祭 磯 晴久(大阪)	司祭 上原榮正(沖縄)
司祭 丁 胤植(中部)	司祭 野村 潔(中部)	司祭 前田良彦(東京)
司祭 武藤謙一(横浜)	池住 圭(中部)	

**放射能と原発事故に関するワーキンググループ**

委員長 司祭 岩城 聰(大阪)		
委員 司祭 磯 晴久(大阪)	司祭 上原榮正(沖縄)	司祭 神崎雄二(東京)
司祭 小林 聡(京都)	佐々木靖子(京都)	西間木美恵子(東北)
宮脇博子(大阪)	司祭 相澤牧人〔総主事〕	

**「いっしょに歩こう！プロジェクト」運営委員会**

委員長 司祭 大町信也(北海道)		
委員 主教 植松 誠(北海道)	主教 中村 豊(神戸)	主教 加藤博道(東北)
司祭 影山博美(東北)	司祭 斎藤英樹(北関東)	司祭 笹森田鶴(東京)
司祭 野村 潔(中部)	司祭 八戸 功(東北)	村井恵子(横浜)

**宣教協働者招聘委員**

委員 主教 大畑喜道(東京) 司祭 金 大原(東京) 司祭 野村 潔(中部)  
司祭 相澤牧人〔総主事〕

**収益事業委員会**

委員 司祭 村上守旦(横浜) 久保田秀雄(横浜) 小出康之(東京)  
外池圭二(九州) 山中 一(中部)  
司祭 相澤牧人〔総主事〕 尾崎茂雄〔財政主事〕

**(管区事務所の特別委員)****エキュメニズム委員**

委員長 主教 加藤博道(東北)  
委員 司祭 市原信太郎(中部) 司祭 岩城 聰(大阪) 司祭 竹内一也(横浜)  
司祭 西原廉太(中部) 河野隆一(横浜) (女性信徒1名)

**教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員**

司祭 小林尚明(神戸) 倉石 昇(横浜) 黒田哲朗(東京)  
中原千津子(横浜) 山中 一(中部) 司祭 相澤牧人〔総主事〕  
尾崎茂雄〔財政主事〕

**ハラスメント防止に関する管区体制を検討するチーム**

人権担当者、女性デスク、正義と平和・ジェンダープロジェクト、各1名  
各教区ハラスメント防止担当者などより若干名

**(主教会のもとにある委員)****管区共通聖職試験委員**

担当主教 主教 広田勝一(北関東)  
委員長 司祭 菅原裕治(東京)  
旧 約 司祭 輿石 勇(北関東) 主教 広田勝一(北関東)  
新 約 司祭 菅原裕治(東京) 布川悦子(東京)  
教 理 司祭 西原廉太(中部) 司祭 岩城 聰(大阪)  
教会史 司祭 秋葉晴彦(北関東) 司祭 竹内一也(横浜)  
礼 拝 司祭 木村直樹(北関東) 司祭 吉田雅人(神戸)  
宣教牧会 司祭 河崎 望(横浜) 司祭 黒田 裕(京都)

**教理礼拝組織調査員**

長 主教 加藤博道(東北)  
教理部 主査 司祭 秋葉晴彦(北関東)  
司祭 岡野保信(横浜) 司祭 高橋宏幸(東京) 司祭 林 和弘(神戸)  
礼拝部 主査 司祭 木村直樹(北関東)  
司祭 内田 望(大阪) 司祭 大野清夫(横浜) 司祭 片山 謙(横浜)  
組織部 主査 司祭 土井宏純(中部)  
司祭 宇津山武志(横浜) 司祭 山口千壽(東京) 司祭 山本 眞(大阪)

**総会書記**

書記長 司祭 鈴木裕二(東京)  
書記 司祭 片山 謙(横浜) 司祭 小林祐二(横浜) 司祭 松田 浩(横浜)  
執事 岸本 望(北関東) 執事 倉澤一太郎(東京) 聖職候補生 平岡康弘(北関東)